

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

(1) 自然環境の概要

矢作川は標高 1,900m 付近に源を発し、源流部は年降水量が 1,600mm 以上で 2,300mm を超える所もある。山地から丘陵、台地へと移行し、標高 100m 付近になると、風化した花崗岩が堆積し沖積層が形成される。また、土地利用は山林から市街地や畑等へと変化する。明治用水頭首工をくだると平野部となり、年降水量 1400mm 未満の比較的小雨地帯の低地が広がる。

矢作川流域は、花崗岩質の山林と市街化した沖積層の平野部に大きく 2 区分されるが、自然環境から見た流域区分としては、生物の生息・生育基盤との観点から、流域の地形、気候、土地利用等に依存する植生分布をもとに次の 3 つに区分する。



上流域の景観
(河口より 100km 地点)



中流域の景観
(河口より 42km 地点)

< 中流域 >

標高 100m ~ 500m 付近でアカマツ・クロマツ等の人工林が分布する山地、盆地、台地からなる区域を中流域とする。河川環境については、明治用水頭首工から上流の区間で矢作ダムまでのダムの湛水域と連続した瀬と淵が交互にみられる区間を中流域とする。

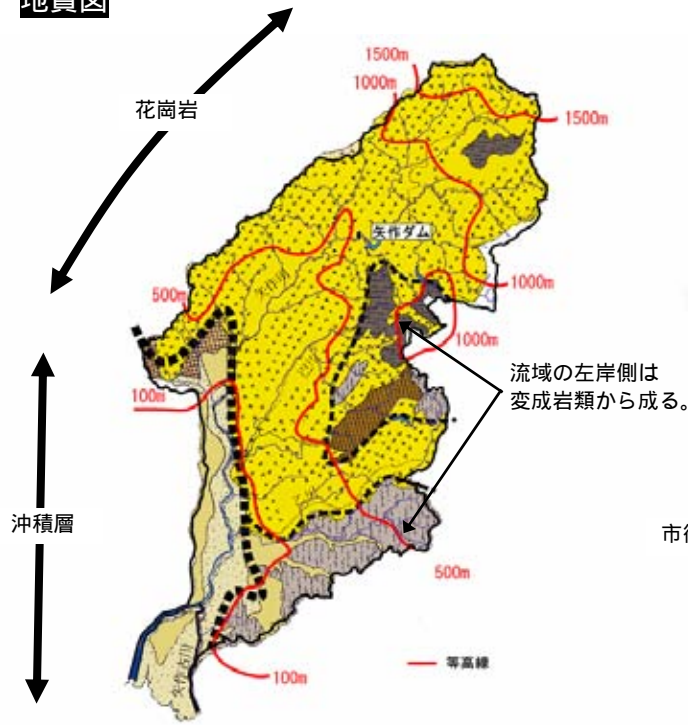
< 下流域 >

標高 100m 以下の市街地や農地が広がる平野部を下流域とする。河川環境については、砂河川の様相を呈し瀬や淵等が明瞭には区分されない河床形態となる区間を下流域とする。



下流域の景観
(河口より 14km 地点)

地質図



土地利用図



潜在植生図



現存植生図



出典：地質図 通商産業省工業技術院地質調査所 1/50万地質図 昭和57年度 をもとに作成
 土地利用図 H6～13年修正 1/50000地形図(H5～12年修正測量1/25000地形図をもとに修正)をもとに作成
 (上流域は一部S60年修正1/50000地形図(S59,60年修正1/25000地形図をもとに修正)を使用)
 潜在植生図 「中部地方の潜在自然植生図 1/500000」日本植生誌 中部 1985 至文堂 をもとに作成
 現存植生図 「中部地方の現存植生図 1/500000」日本植生誌 中部 1985 至文堂 をもとに作成

自然環境及び社会環境から見た矢作川の流域区分

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 上流域の自然環境

矢作川の源流域はカラマツ、スギ・ヒノキ、ミズナラ等の森林に囲まれており、流れの近くにはフキやコケ類等が生育する。年間を通して冷涼な水温と清澄な水質が維持されている。

このような源流域には水中で5~8年を過ごし、水際のフキやコケ類に産卵するムカシトンボや、沢沿いの湿った岩盤にコケ類などで巣をつくり繁殖するミソサザイ等が生息している。また、このような源流域にはハコネサンショウウオやヒダサンショウウオ等が森林と水域を移動しながら生息している。



矢作川上流の溪流環境
(段戸川)

(矢作川の源流域)



(源流域にはムカシトンボ等が生息)



ムカシトンボ

出典：「トンボのすべて」
トンボ出版

(森林と水域を移動しながら生息するサンショウウオ類)



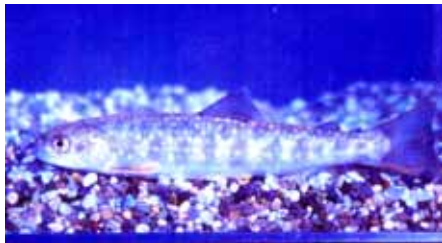
ハコネサンショウウオ



ヒダサンショウウオ(幼生)

山付きの溪流部には冷涼で清澄な水質を好むニッコウイワナやアマゴ、カジカ類などの魚類や、オオナガレトビケラ等の水生昆虫類が生息している。また、水中に潜り魚類などを食すカワガラス等の鳥類や、カワネズミ等の哺乳類も生息している。河岸にはネコヤナギやカワラハンノキ等が繁茂している。また、大きな石の下や岩の隙間などにはカワネズミが営巣している。森林と溪流を移動しながら生息している動物も多く、カジカガエルなどの両生類は、通常は森林に生息し、幼生期や繁殖期を溪流で過ごす。ニッコウイワナやアマゴ等は支川と本川を移動し、支川の砂礫底で産卵する。

(低温で清澄な溪流域に生息する魚類)



ニッコウイワナ



アマゴ

(水中に潜り採餌する生物)



カワガラス



カワネズミ

出典：「森の新聞 カワネズミの谷」
(株)フレイベル館

(上流域の河岸植生)



ネコヤナギ

写真提供：奥田重俊氏

(森林と溪流を
移動しながら生息する生物)



カジカガエル

(2) 中流域の自然環境

中流域の河岸にはカワヤナギ、アカメヤナギ、タチヤナギを主とするヤナギ類が生育し、水際にはツルヨシ群落が生育する。ダム湛水域にはオシドリ、カルガモ等のカモ類が休息場として利用しており、ヤマセミ、カワセミ等の魚食性の鳥類が採餌に訪れる。連続する瀬と淵が多く見られる区間では、キセキレイ、セグロセキレイ等が河原で昆虫類を採餌する。また、アユ、ウグイ、アカザ、ヨシノボリ類などが生息しており、越戸ダムより下流の平瀬では、アユ等の産卵場として利用される区間も多い。



阿摺堰堤貯水池



アユの産卵場となる
久澄橋より上流の瀬淵環境
(河口より 39.4km 付近)

(低山地や丘陵地のダム湛水域を
休息場・採餌場とする鳥類)



オシドリ



ヤマセミ

(連続する瀬と淵で形成される
河川環境で生息する魚類)



アユ



カワヨシノボリ

越戸ダムから鵜の首橋^{うのくび}に至る矢作緑地は河川敷を利用した大規模公園の利用が盛んである。また、矢作緑地には竹林やヤナギ類、エノキ・ムクノキ等の落葉広葉樹林等から成る連続する樹林帯が形成されており、タヌキ等の中型哺乳類の移動経路等として利用されたり、イシガメ等のカメ類やカエル類等のように、水域と陸域を移動しながら生活する動物も生息している。



矢作緑地の連続する樹林等



タヌキ



イシガメ

鵜の首狭窄部周辺は明治用水頭首工の湛水域にあたり、両岸には竹林やヤナギ類、エノキ・ムクノキ等の落葉広葉樹林などが周辺丘陵地の植生と一体化して生育している。この付近は緑豊かで良好な景観であることから風致地区^{やはぎだい}(矢作台風致地区 34.6~36.2km)に設定されている。



矢作台風致地区
(左岸 35 ~ 35.2km 付近を望む)

中流域は矢作ダムから明治用水頭首工まで7つの横断工作物が連続しており、発電施設により川の水がバイパスされ、部分的に河川流量が少ない区間が発生している。また、河床材料の粗粒化も見られ、このような礫河床には造網性のトビケラ類が多く生息している。



(越戸ダム下流の減水区間)



粗粒化した河床環境
(河口より 40.4km 付近)



造網性のトビケラ
(ウルマーシマトビケラ)

写真提供：稲田和久氏

(3)下流部の自然環境

明治用水頭首工より下流は、白い砂礫地が卓越した矢作川らしい景観を形成している。このような環境には、コチドリ、コアジサシ、オサムシモドキ、カワラナデシコをはじめとする砂礫地に依存する動植物が生息・生育している。また、水域には、マシジミ、スナヤツメ、シマドジョウ、カマツカ、キイロヤマトンボをはじめとする矢作川らしい砂河川の環境に依存する生物が生息している。

(砂州(砂礫地))



砂州が発達した矢作川らしい景観(23km付近)

< 矢作川の砂州や砂礫底を指標する主な生物 >



コアジサシ



マシジミ



スナヤツメ



キイロヤマトンボ
出典:「トンボのすべて」
トンボ出版

冠水頻度が小さい高水敷等には竹林やヤナギ類等から成る樹林地が形成されている。このうち、ヤナギ類については柳枝工の施工と高水敷の安定化に伴う樹林化等により昭和 50 年代以降に繁茂したものが多い。

(河道内樹木)



竹林が発達した景観 (26.5km 付近) 樹林化の進行した景観 (7km 付近)

河道内には出水による自然の営力で維持形成されてきたワンド・クリーク等の緩流域が随所に見られ、その周辺にはヤナギタデやツルヨシ等が繁茂している。このような緩流域にはモツゴ類、タナゴ類等の小型魚類やハグロトンボ等のトンボ類をはじめとする水生昆虫類が生息しており、サギ類やカワセミ等の魚食性の鳥類が採餌に訪れる。また、出水時には魚類等の避難場所としても機能している。

(ワンド・クリーク等の
緩流域に生息する生物)



左岸 9.9km 米津橋下流付近のワンド



モツゴ



ハグロトンボ

低水路から高水敷にかけては水分条件に応じてオギ、ススキ、チガヤ等のイネ科の高茎草本群落が発達しており、カヤネズミやセッカ等の繁殖地として利用されている。



高茎草本群落 (31km 付近)



カヤネズミ



セッカ

(汽水域のヨシ原)

汽水域の水際にはヨシ原が形成されており、オオヨシキリ、コヨシキリ等の繁殖地、オオジュリンやチュウヒ等の越冬地として利用されている。また、ヨシ原内の湿地にはヒロクチカノコガイやアシハラガニ等が生息している。河口部から汽水域にかけてはヒドリガモ等のカモ類やユリカモメ等のカモメ類が越冬地として利用している。特にヨシ原前面の浅場は陸上からの視界が遮られ、猛禽類等の捕食者から身を隠しやすいため、集団休息の場として利用されている。



右岸 2.6 ~ 4.0km 付近のヨシ原



オオヨシキリ



チュウヒ

(河口部の干潟)



左岸 0km 付近 干潟の状況

河口部には干潟が形成されており、ハマシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギをはじめとする多くのシギ・チドリ類の渡りの中継地として利用されている。また、干潟の砂泥底にはアサリ、ヤマトシジミ等のニマイガイ類や、ゴカイ類、チゴガニ等のスナガニ類、ビリンゴ等のハゼ科魚類などの水生生物が生息しており、シギ・チドリ類等の餌資源となっている。

干潟に生息するアサリやヤマトシジミ等のニマイガイ類は水中の藻類等を鰓で濾過して食す際に水質を浄化するとされている。このため、これらニマイガイ類等の生息する河口部の干潟は、三河湾の水質浄化にも寄与していると推察される。



チュウシャクシギ



ヤマトシジミ



ゴカイ類

(4) 矢作川における重要種

河川水辺の国勢調査の生物調査結果をもとに、学術上または希少性等の観点から選定した重要種を以下に示す。選定にあたっては、「文化財保護法」、「文化財保護条例」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」等の法律や条例で定められた種、および環境省のレッドデータブック、愛知県版のレッドデータブック等の掲載種とした。

重 要 種 選 定 基 準
<ul style="list-style-type: none"> ・「文化財保護法」「文化財保護条例」における国、都道府県、市町村指定天然記念物 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」国内希少野生動植物種 ・「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」掲載種 (汽水・淡水魚類 H15、植物 (維管束植物)H13、鳥類 H14、両生類・爬虫類 H12、哺乳類 H14) ・「環境庁報道発表資料 レッドリスト」無脊椎動物 掲載種 ・「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち」掲載種 (動物編、植物編)

【矢作川で確認された魚類の重要種一覧表】

科 名	種 名	指 定 区 分
コイ科	イチモンジタナゴ	全国版 RDB : EN 愛知県版 RDB : VU
	カワヒガイ	愛知県 RDB : DD
アカザ科	アカザ	全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : NT
メダカ科	メダカ	全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : NT
カジカ科	ウツセミカジカ	全国版 RDB : VU
スズキ科	オヤニラミ	全国版 RDB : NT

指定区分

- ・全国版 RDB : 「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」
汽水・淡水魚類 H15
EN : 絶滅危惧 B類 VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧
- ・愛知県版 RDB : 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 動物編 - 」
VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧 DD : 情報不足

【矢作川で確認された底生動物の重要種一覧表】

科名	種名	指定区分
アマオブネガイ科	ヒロクチカノコガイ	愛知県版 RDB : VU
タニシ科	マルタニシ	全国版 RL : NT 愛知県版 RDB : NT
ワカウラツボ科 (カワグチツボ科)	カワグチツボ	愛知県版 RDB : NT
モノアラガイ科	モノアラガイ	全国版 RL : NT 愛知県版 RDB : NT
オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	全国版 RL : NT 愛知県版 RDB : NT
イシガイ科	ドブガイ (タガイ、ヌマガイ)	愛知県版 RDB : NT
	イシガイ	愛知県版 RDB : CR
オキナガイ科	ソトオリガイ	愛知県版 RDB : NT
ヤンマ科	コシボソヤンマ	愛知県版 RDB : NT
サナエトンボ科	ホンサナエ	愛知県版 RDB : NT
	ナゴヤサナエ	愛知県版 RDB : NT
エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	全国版 RL : VU 愛知県版 RDB : NT
アミメカワゲラ科	アミメカワゲラ	全国版 RL : NT
ミズスマシ科	コオナガミズスマシ	愛知県版 RDB : NT
ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	全国版 RL : CR + EN 愛知県版 RDB : NT

指定区分

- ・全国版 RL : 「環境庁報道発表資料 レッドリスト」
CR + EN : 絶滅危惧 類 VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧
- ・愛知県版 RDB : 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 動物編 - 」
CR : 絶滅危惧 A 類 VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧

【矢作川で確認された植物の重要種一覧表】

科名	種名	指定区分
アカザ科	ハマアカザ	愛知県版 RDB : VU
	マルバアカザ	愛知県版 RDB : NT
	カワラアカザ	愛知県版 RDB : NT
マツモ科	マツモ	愛知県版 RDB : NT
ユキノシタ科	タコノアシ	全国版 RDB : VU
		愛知県版 RDB : NT
セリ科	ハマゼリ	愛知県版 RDB : NT
シソ科	シロネ	愛知県版 RDB : NT
	ミゾコウジュ	全国版 RDB : NT
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	全国版 RDB : NT
キク科	ウラギク	全国版 RDB : VU

指定区分

- ・ 全国版 RDB : 「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」
植物 (維管束植物) H13
VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧
- ・ 愛知県版 RDB : 「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 植物編 - 」
VU : 絶滅危惧 類 NT : 準絶滅危惧

【矢作川で確認された鳥類の重要種一覧表】

科名	種名	指定区分
サギ科	ヨシゴイ	愛知県版 RDB : EN
	チュウサギ	全国版 RDB : NT
カモ科	ヒロードキンクロ	愛知県版 RDB : VU
タカ科	ミサゴ	全国版 RDB : NT 愛知県版 RDB : NT
	オオタカ	種の保存 : 国内 全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : NT
	ツミ	愛知県版 RDB : NT
	ハイタカ	全国版 RDB : NT 愛知県版 RDB : NT
	サシバ	愛知県版 RDB : VU サシバの渡り群; 愛知県版 RDB : LP
	チュウヒ	愛知県版 RDB : EN
ハヤブサ科	ハヤブサ	種の保存 : 国内 全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : EN
クイナ科	クイナ	愛知県版 RDB : NT
チドリ科	イカルチドリ	愛知県版 RDB : NT
	ダイゼン	ダイゼンの渡り群; 愛知県版 RDB : LP
シギ科	ハマシギ	ハマシギの渡り群; 愛知県版 RDB : LP
	オオソリハシシギ	愛知県版 RDB : NT
	ダイシャクシギ	愛知県版 RDB : NT
	ハウロクシギ	全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : VU
カモメ科	コアジサシ	全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : NT
カッコウ科	ツツドリ	愛知県版 RDB : NT
サンショウクイ科	サンショウクイ	全国版 RDB : VU 愛知県版 RDB : VU
ツグミ科	コルリ	愛知県版 RDB : NT
	アカハラ	愛知県版 RDB : VU

指定区分

- ・種の保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」
国内希少野生動植物種
- ・全国版 RDB：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」鳥類 H14
VU：絶滅危惧 類 NT：準絶滅危惧
- ・愛知県版 RDB：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 動物編 - 」
EN：絶滅危惧 B類 VU：絶滅危惧 類 NT：準絶滅危惧
LP：地域個体群

【矢作川で確認された爬虫類の重要種一覧表】

科名	種名	指定区分
スッポン科	スッポン	全国版 RDB：DD 愛知県版 RDB：DD

指定区分

- ・全国版 RDB：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」
両生類・爬虫類 H12
DD：情報不足
- ・愛知県版 RDB：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 動物編 - 」
DD：情報不足

なお、両生類では重要種の確認はなし。

【矢作川で確認された哺乳類の重要種一覧表】

科名	種名	指定区分
ネズミ科	ハタネズミ	愛知県版 RDB：NT
	カヤネズミ	愛知県版 RDB：VU

指定区分

- ・愛知県版 RDB：「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物
レッドデータブックあいち - 動物編 - 」
CR：絶滅危惧 A類 VU：絶滅危惧 類 NT：準絶滅危惧

2-3 特徴的な河川景観

矢作川上流域には、達原溪谷にある^{のど たき}喉の滝や茶臼山を望む^{おどな}小戸名溪谷などをはじめ、滝や深い溪谷の美しい自然景観に恵まれている。段戸山周辺や巴川上流域には香嵐渓を始め景勝地が多く、愛知高原国定公園の一部となっているほか、乙川上流域には^{くらがり}闇荻溪谷をはじめとする景勝地があり、一帯は^{ほんぐうさん}本宮山県立自然公園になっている。こうした自然を求めて新緑や紅葉の季節には多くの観光客が訪れている。

中流域は、山間部から丘陵部を経て平野部の市街地へと移行する区間である。山間部では、アカマツやクロマツの林に囲まれており、丘陵部では、下流を望むと平野部が一望に広がる景観となっている。平野部は、豊田市北部の枝下付近から広がっており、豊田市を中心とした市街地付近では、矢作川の高水敷に公園や運動施設などがあり人々に親しまれているが、特に豊田スタジアムなどを備えた中央公園は、^{きゅうちょう}久澄橋、豊田大橋、高橋などと相俟って整備された景観となっている。

下流域は、桜つつみ、乙川^{とのばし}殿橋下流の大噴水など公園、グラウンド等として整備された空間が、沿川の住民に身近な空間として散策、レクリエーション、スポーツなどに利用されている。矢作川の河口は三河湾に面し、海岸部では、潮干狩りや海釣りなどでにぎわい、大提灯まつりなどの歴史的な行事が行われ、温泉などの資源も点在している。

【矢作川の特徴的な景観】

1) ^{えな かみやはぎ}喉の滝（恵那市上矢作町）

達原溪谷にある滝で町の名勝に指定されている。その形から「喉の滝」と呼ばれている。



喉の滝

2) ^{ねば}小戸名溪谷（根羽村）

矢作川源流域の茶臼山を望む溪谷。新緑・岩ツツジ・紅葉など四季折々の美しい景観が親しまれている。根羽村は小戸名溪谷の最上流付近の森林を「矢作川の水源地の森」とし、下流域の愛知県安城市と協力して、水源涵養を主な目的とした森林の維持管理・保護育成に取り組んでいる。



小戸名溪谷

3) 澄ヶ瀬やな (恵那市上矢作町)

8月～10月中旬まで、上村川の清流で育った香り高いアユを川辺で食べられる。



澄ヶ瀬やな

出典：上矢作町ホームページ

4) もみじの香嵐溪 (豊田市足助町)

香嵐溪の紅葉は、寛永11年(1634)に香積寺の第11世住職・三栄和尚が、参道に杉やもみじを植えたのが始まりとされる。



香嵐溪

5) 三河湖 (豊田市羽布町)

昭和38年(1963)に矢作川支川の巴川に完成した羽布ダムにより誕生した湖であり、平成17年3月にダム湖百選に認定された。一周16キロのドライブコースがあり、観光センター、バンガロー村、キャンプ場が整備されている。



三河湖

写真提供：羽布ダム管理所

6) 闇苧溪谷 (額田町)

闇苧溪谷は、本宮山県立自然公園に指定されており、明治時代に植栽されたスギ、ヒノキとその中に点在するカシ、カエデ等が優れた渓谷美を呈している。稜線部には本宮山スカイラインが整備され、富士山や南アルプス連邦の遠望や三河湾を眼下に見下ろす広大な眺望に優れ、風致探勝の場として適している。



闇苧溪谷

7) 広瀬やな (豊田市)

矢作川流域の清流の中につくられたやなで、初夏から秋まで新鮮なアユ料理を楽しむことができ、多くの観光客で賑わう。矢作川のやな漁の歴史は古く、元禄4年(1691)の年貢納付状にその記載がある。平成12年の東海(恵南)豪雨で流失したが、平成13年にリニューアルオープンした。



広瀬やな

出典：「矢作川とその流域」

8) 古^{ふっそ}峯水辺公園（豊田市）

平成3年、豊田市内で、県内で初めて近自然工法による水制工が整備されると同時に、護岸を覆っていた河畔林を整備して水辺公園を造ったところ、自然に地元市民が集まるようになって市民団体を結成し、「古^{ふっそ}峯水辺公園」と命名した。そして草刈やゴミ拾いなどの水辺愛護活動を行うようになった。また、毎年約500人が80艘で参加する「筏下り大会」の発着場としても利用されている。



古^{ふっそ}峯水辺公園
写真提供：豊田市

9) 水^{すいげん}源公園（豊田市）

安^{あんえい}永川の堤には約1,000本の桜が植えられ、市内最大の桜の名所となっている。また、「水源桜まつり」や「矢作川舟遊び」等のほか、各種イベントも行われている。



水源公園

10) 乙川^{おつがわ}の殿橋下流の大噴水（岡崎市）

岡崎市では河川浄化事業の一環として「乙川の大噴水」を殿橋の下流に設置した。この大噴水は川の中に設けたものとしては全国有数の規模であり、川の水を吹き上げ、酸素を十分に含ませることで水質の浄化に寄与している。また、市民に親しまれる水と緑の空間を創造し、河川環境づくりの役割も果たしており、平成元年7月には建設大臣から「手作り郷土賞」を受賞した。



殿橋下流の大噴水
写真提供：岡崎市

11) 矢作川桜づつみ^{へきなん}（碧南市）

矢作川河口から5kmほどの右岸側の堤防には、全長2kmにわたる桜並木が整備され、景観に安らぎを与えている。



矢作川桜づつみ
出典：碧南市ホームページ

2-4 河川にまつわる歴史・文化

矢作川流域では縄文時代の貝塚や弥生時代の集落跡が多く発掘されていることから、古くから人が住みついていたと推察される。飛鳥～平安時代にかけては、高橋庄たかばしのしょうや吉良庄きらのしょうなどに知られる荘園などが発達した。鎌倉～室町時代にかけては、安達盛長あだちもりながや足利義氏あしかがよしうじが三河の守護となり、矢作川と鎌倉街道が交わるあたりに矢作宿（岡崎市）が栄えた。江戸時代に入ると宿場町として矢作川と乙川の合流点付近に岡崎宿が栄え、重要な拠点としての機能を有するようになった。明治～大正時代にかけて紡績業と養蚕業が発達し、現代では自動車産業等の中核地として全国有数の規模を誇っている。

上流域では、かつて塩などを信州へ運んだ街道沿いに、大船神社などの神社仏閣が点在しており、歴史的に古い松並木などが今に残されている。

中流域には旧石器時代や縄文前期の遺跡が残り、また江戸～明治時代の用水や水車などの歴史的な建造物のほか、舟万灯まつりふねまんどうまつりやヤナ漁などの風情あふれる光景も見られる。

下流域は江戸時代に交通の要衝として栄えおり、矢作橋は矢作川にかかる東海道唯一の橋として賑わい、岡崎城は流域の中心的な存在でもあった。さらに、縄文後期や弥生時代の遺跡や7世紀頃の廃寺跡、矢作川の名の由来の伝説の残る矢作神社なども残っている。また、現在でも米津よねづの川まつりなどが開かれ、夏の風物詩となっている。

【矢作川にまつわる歴史・文化】

1) 大船神社参道の松並木（恵那市上矢作町）

上矢作町周辺には、江戸時代から明治にかけて馬で荷物を運ぶ中馬街道ちゅうまが通っており、数百年の歴史を持つ神社仏閣が残っている。中でも八幡神社裏から続く大船神社の参道は、約4.6kmもの赤松の松並木が続いており、その数は400本を越え、県の天然記念物や日本名松百選に指定されている。以前は、春の大祭で村人全員が松並木の参道を登ったと言われている。また、大船神社の奥には、弁慶べんけいが義経よしつねと奥州おうしゅうへ下る途中で植えたと言われる樹齢800年以上といわれる弁慶杉もある。



大船神社参道の松並木
出典：上矢作町ホームページ

2) 舟万燈まつり（豊田市）

豊田市藤沢町で毎年8月15日に行われるまつり。100個余りの提灯を灯した屋台舟が川面に浮かび、花火とともに独特の風情をかもしだしている。

水難除けを祈願して行われるようになったといわれ、矢作川を川船が往来していた時代の名残をとどめる風景である。



舟万灯まつり
写真提供：豊田市

3) 明治川神社

明治川神社には水にゆかりの深い大水祖神、水分神、高麗の三柱を中心に、明治用水の開削に功績のあった都築弥厚、伊与田与八郎、岡本兵松、西沢真蔵の四柱が用水の守護神として祀られている。



明治川神社
出典：安城市ホームページ

4) 古代の遺跡

矢作川の流域には先史時代から近世にいたるまでの史跡が多く存在する。豊田市を中心とする中流域からは、旧石器時代の遺跡が数多く確認されており、代表的な遺跡としては、豊田市の長興寺遺跡、霊岩寺B遺跡、岡崎市の仁木八幡宮遺跡が知られている。巴川右岸の酒呑ジュリンナ遺跡からは石器に加え縄文草創期の土器等が発見されている。



矢作川河床遺跡
大門地区出土遺構
出典：「川と人 矢作川」

縄文後期の遺跡は海岸寄りに貝塚とともに発見されており、矢作沿川では乙川合流近くの真宮遺跡、矢作新川左岸の八王子貝塚がある。また、豊田、岡崎市境の矢作川の川底で平成16年9月に見つかった埋没林が、縄文時代晩期に当たるおよそ2,600年前に生育していた森林である可能性の高いことが、豊田市教育委員会の調査でわかった。

弥生時代には、稲作による内陸部への定住がはじまり、また、この時代には社会制度の発生を伺わせる環濠集落跡が西尾市の岡島遺跡、矢作古川左岸の中根山遺跡等で発見されている。

古墳遺跡は、矢作川の上・中・下流と全川を通して見つかり、また支川の籠川沿川や、本川中流域の左岸、それに矢作古川右岸に多く分布しているほか、矢作新川左岸の清水遺跡からは、この時代の製塩跡が見つかり、また、矢作古川河床からの頃の集落遺跡である渡船場遺跡（矢作古川河床C遺跡）も見つかり、

5) 近代の産業遺跡

三河地方は江戸時代から三河木綿^{みかわもめん}として知られた。三河木綿の生産は、三河地方でとれた綿花を水車の動力で紡いで出来る「和紡績糸」で、ガラ紡糸と呼ばれた。水車の動力には矢作川支川の水が利用され、現在でも豊田市大内町や額田郡額田町にわずかに残っている。



がら紡

この和紡績は、明治期になって洋式の機械紡績に取って代わられた。明治政府によって造られた洋式紡績工場

である愛知紡績には、ミュール精紡機が導入されたが、この機械は矢作川支川の乙川から工場内に引き込んだ用水からの水力を動力源としていた。
現在もその敷地内には2kmの水路が当時のまま残されており、貴重な産業資料となっている。

6) 矢作神社

^{やまとたけるのみこと} ^{とうい}日本武尊が東夷大征伐に向かう際、戦いの神である素盞鳴尊^{すさのおのみこと}にお祈りをし、ここに生えていた竹で一万本の矢をつくったという伝説の残る神社である。

この故事から御河^{みかわ}と呼ばれていた川が「矢作川」と呼ばれるようになったという。境内には伝説の矢竹や、南北朝時代の矢作川合戦の際、足利尊氏と戦った新田義貞が戦勝を祈った際に鳴ったといわれる「うなり石」が残る。



矢作神社
出典：岡崎市ホームページ

7) 矢作橋

岡崎市矢作町^{はっちょうちょう}と八帖町^{はちじょう}を結ぶ長さ276m、幅18.5mの橋。江戸時代は東海道、現在は国道1号が通る要路である。

板橋が架けられる以前は、土橋や舟橋が造られては大水で流され、そのたびに渡し船が使われた。江戸時代初頭の治水事業で矢作川の水路が固定化されたことで架橋が可能になり、本格的な板橋が架けられた。この橋は東海道の街道整備や岡崎の城下町の形成に大きく貢献した。以後、何度も大水で流され、そのたびに造り替えられたが、現在の位置には大正2年に鉄橋として架橋された。昭和26年に永久橋となり、昭和48年に拡幅された。



矢作橋（明治23年）
出典：「川と人 矢作川」



（現在）

8) 岡崎城（岡崎市）

矢作川と支川の乙川の流れを天然の要塞に見立て、三河守護代西郷稠頼^{さいごうつぎより}が享徳元年（1452）に築城した。大永4年（1524）には松平清康^{まつだいらきよやす}が入城し三河統一の拠点となり、天文11年（1542）には松平竹千代^{まつだいらたけちよ}（後の徳川家康）が城内で生まれた。

明治時代初期、政府により城郭の大部分が取り壊されたが、昭和34年に三層五重の天守閣が復元された。



岡崎城
出典：岡崎市ホームページ

9) 岡崎の花火大会（岡崎市）

岡崎市の乙川・矢作川河畔で行われる夏の花火大会。江戸時代の文化文政期には情緒豊かな^{ほこぶね}銚船を浮かべた花火祭りとして知られた菅生まつりが、今日では岡崎観光夏まつりとあいまって、岡崎特有の金魚花火や仕掛花火など約1万5,000発の打ち上げ花火が、夜空を焦がす。



岡崎の花火大会

10) 廃寺遺跡

矢作古川の分岐点周辺の本川を挟んだ両岸で古代瓦が多く出土しており、古代の瓦窯跡と廃寺跡と考えられている。志貴野町には「志貴野廃寺」名付けられた古代瓦片散布地がみられる。また、洪積台地上に位置し、塔心礎と柱孔などが保存されている「北野廃寺址」は、伽羅配置が四天王式で、流域最古のものとされている。どちらも白鳳時代（7世紀頃）に建設されたものと推定される。



北野廃寺址

出典：「写真で見る
矢作川の流域」

11) 米津の川まつり（西尾市）

毎年8月15日の夜、西尾市の米津橋のたもとで行われるお盆の行事で、約3,000個の万灯が流される。戦後まもなく戦没者や水難犠牲者の慰霊のために万灯を流したのがはじまりといわれる。現在では2,000発の花火が打ち上げられ、矢作川の夏の風物詩として定着している。



米津の川まつり

12) 黄金堤（吉良町）

吉良町の北部、西尾市との境近くの岡崎街道沿いに黄金堤がある。貞享3年（1686）に吉良上野介義央が私財を^{きらこうずけのすけよしひさ}投じ、一夜で築いたと伝えられる長さ180m、高さ4m程の堤防で、忠臣蔵の悪役吉良上野介が領民に対して行った善政の証と伝える、重要な史跡のひとつである。年々黄金に色づく田面を眺め、「あの堤のおかげ」と、吉良家の恩を感じた人々が「黄金堤」、「一夜堤」と呼んだという。



黄金堤

写真提供：吉良町

2-5 河川環境に関わる地域の活動

昭和 30 年代後半、高度経済成長による工業化が進んだ地域で河川の水質汚濁が進み社会問題となった。矢作川においても、以下に示すような様々な要因で水質が悪化し、農業や漁業に被害を与えた。

- ・ 山砂利や陶土の採取・洗浄による白濁
- ・ 自動車産業を中核とする工業化による工業排水の増加
- ・ 中下流域の人口急増による家庭排水の増加
- ・ 上流部でのゴルフ場建設や宅地開発による乱伐、林業の衰退等による山の保水力の低下などにより、大量の土砂の流出やヘドロの堆積等

このように矢作川の水質汚濁が著しく、生活基盤が危うくなりつつあった昭和 44 年、矢作川流域の農業関連団体、漁業関連団体、自治体が一体となり、「矢作川沿岸水質保全対策協議会（通称：矢水協^{やすいきょう}）」を設立した。矢水協の活動目的は、「矢作川沿岸および水域の水質保全のために必要な調査・対策及び運動を行うこと」であり、排水基準の設定を国や県に陳情し、監視活動や水質調査などを実施した。また、流域内の開発行為に対して事前に矢水協の同意を得ることを条件とした「矢作川方式」を確立し、流域の秩序ある開発を目指した。さらに「流域は一つ、運命共同体」を合言葉に上流と下流、市町村の境界を超えた相互理解を深めるための交流、環境教育や啓蒙活動を推進した。「矢作川方式」は民間、河川管理者、行政、利水者等の協働による活動として全国的に高い評価を受け、平成 11 年度には「第 1 回日本水大賞グランプリ」を受賞した。

平成 13 年 5 月に、矢作川流域で活動する 12 団体が情報の共有や活動の連携を目的として、矢作川「川会議」を結成し、第 1 回会議にて矢作川「川宣言」をとりまとめ、川文化の形成、継承を目指して活動している。



2004 年 矢作川「川会議」



西広瀬小学校水質汚濁調査
連続一万日目達成記念式

また、豊田市立西広瀬小学校では、環境保全活動の一環として、昭和 51 年から水質汚濁調査を開始し、現在まで続けられている。平成 15 年 11 月 18 日には、連続 10,000 日を達成した。

2-6 自然公園等の指定状況

矢作川中流域の豊田市北端から上流域の恵那市串原にかけての本川流域および、支川の籠川や巴川の上流部一帯は、花崗岩の渓流と自然林の美しい自然景観に恵まれ、愛知高原国定公園、段戸高原県立自然公園に指定されており、東海自然歩道の一部が整備されている。

支川の乙川最上流部一帯は本宮山県立自然公園に、また、根羽川最上流部の茶臼山一帯は天竜奥三河国定公園に指定されている。



図 2-1 矢作川流域内国定公園・県立自然公園指定状況